

●○○ 第201回あすか倶楽部 定例会 ●○○

テーマ：プレゼン上手になろう！

～マイク・アンプ・プロジェクターの接続・トラブルに強くなる！～

講師：坂本 豊氏（消費生活アドバイザー 33期）

日時：2018年4月21日（土）14:00～17:00

場所：トヨタ自動車池袋ビル 6階604会議室

【概要】

人前で話したり、プレゼンテーションしたりする場面で、マイクやプロジェクターといった機器の不調や操作ミスで困った経験がある方は多いはず。こうした、なかなか学ぶ機会の少ない「機器類の取扱上の注意やトラブル時の対処方法」につき、現物と事例を交えて紹介いただいた。

【内容】

1. 基本編 「端子の名前を覚えよう」

(1) 端子の種類

現在、世の中で使われている様々な端子の種類と主な用途を配布資料に基づき、順に説明。端子名を正しく把握し、相手に伝えることで、販売店、メーカーあるいは会場とのやりとりを確実にできるようになる。尚、「端子」は、「プラグ」、「コネクター」あるいは「接線」とも言い換えられる。

<主な端子の種類>

RCA-PIN 端子、標準端子（単頭、複頭）、ミニプラグ、キャノン端子、BNC 端子、RF 端子、F 端子、HDMI 端子、D-sub15P 端子、DVI-I 端子、D 端子、S 端子、RJ-45 端子

(2) トラブルシューティング① 接触不良の場合

まずは接続部分を揉んでみる！それだけで解決することも多い。
解決しない場合、次に機器を入れ替えて試すことで、要因が機器側かケーブル側かが特定できる。

2. 実践編 「マイク・アンプの使い方」

(1) ワイヤレスマイク

「パナソニック」「ビクターJVC」「TOA」の3社で国内の約8割のシェアを占める。
ただし、メーカー間の互換性は無く、同一メーカー内でも規格に違いがあるため、現場に設置してあるマイク以外は原則使えないと考えた方がよい。
また、現場により同時使用できる本数の上限があることにも注意。4波用、2波用等、受信器によって同時使用可能なチャンネル数に制約がある。

(2) トラブルシューティング② ワイヤレスマイクの音が切れる場合

例えば、4波用受信器のある環境で、ハンドマイクを4本使用した上、追加でタイピンマイクを使用した場合等、両方とも音が出なくなることがある。受信器の環境の事前確認は必須。

(3) トラブルシューティング③ 他の部屋の音が飛び込んでくる場合

最近のワイヤレスマイクは性能が良いため、別の建屋やフロアの音が飛び込んでくることもある。これは、当事者間で話し合い、一方が使っていないチャンネルに変更するしかない。

(4) 有線マイク

ワイヤレスと違い、メーカー間の規格は統一されている。ただし、稀に端子の形状が異なることがあり、その場合端子のみでの交換はできないため、端子が付いたマイクケーブル自体を適合するタイプに交換することが必要。

また、ケーブルの延長については、ケーブルの長さよりも、何段階延長するかの方が影響が大きい。

1 段階までなら問題無し。2 段階以上だと、環境によるため、やってみなければわからないのが実情。

有線マイクの不調時も、端子やトークスイッチ等、懸念箇所を揉んでみるのが有効。

(5) トラブルシューティング④ ハウリングしてしまう場合

マイク音量で調整するのが基本だが、稀に「オンマイク」の環境下で「オフマイク」を併用したために発生することがある。「オンマイク」で拡声する場合は、「オフマイク」は使用してはならない。

「オンマイク」＝拡声用（10cm 以内の声や音を拡大する）

「オフマイク」＝集音用（1m 以上先の音を拾う。例：ゴルフ中継でのカップインの音の収録等）

(6) マイクスタンドについて

形状によって、「卓上型」「床置型」「ブーム型」の 3 種類があり。マイクスタンドは、マイクと同じメーカーの純正品を使用することが望ましいが、もし異なる組合せの場合は、メーカーによるネジの規格の違いに注意が必要。

「パナソニック」・・・1/2、3/8 「ビクターJVC」「TOA」・・・3/8、5/8、5/16

(7) マイクテストについて

「テストテスト」と声を発して行うこと。「フーッ」と強い息を吹きかけたり、「トントン」と叩いたりするのは、スピーカー側に強い負荷がかかり、故障につながる可能性があるためNG 行為。

3. 実践編 「プロジェクター・ディスプレイの使い方」

(1) 接続の手順

①PC とプロジェクター・ディスプレイを接続。

②プロジェクター・ディスプレイ入力を選択。

③PC の RGB 端子から信号を出力する。

自動で出力される場合もあるが、手動で操作必要な場合はメーカー毎にキーが異なるので要注意。

「Fn + F3」 NEC、ゲートウェイ、ソーテック 「Fn + F4」 HP、Compaq

「Fn + F5」 東芝、シャープ、三菱 「Fn + F7」 SONY、IBM・Lenovo、日立

「Fn + F8」 DELL、EPSON 「Fn + F10」 富士通

(2) トラブルシューティング⑤ 字こぼれする場合

機器側で対応していない信号が PC から出力された時に、圧縮されて字こぼれが起きる場合がある。

抜本的な解決はできないが、対策としては以下の通り。

①データ作成時、テキストボックスはゆとりを持った大きさにしておくこと。

②現場環境で、本番前に一通り映して確認しておくこと。

(3) トラブルシューティング⑥ 画像の色が異常な場合

VGA 端子には、RGB の光の信号を含めて 15 本のピンが並んでいる。色の異常時には、端子またはケーブルの接触不良が考えられるため、まずは接点を揉んでみる。

(4) トラブルシューティング⑦ 壁紙の画像だけでプレゼン画像が出ない場合

PCの「個人設定」⇒「ディスプレイ」⇒「セカンドスクリーン」の設定を確認し、「拡張」となっていた場合、「複製」に変更する。

(5) その他

i-phone/i-padの画像も、市販の「lightning⇒VGAに変換するアダプター」を購入して使用すれば、プロジェクターへの投影が可能となる。

4. まとめ

重要なのは以下の3点。

① 事前に現場で試しておくこと。

本番前に、現場の環境で画像や音を一通り出して試してみることが必要。

② バックアップ策を用意しておくこと。

例) ・データをPC内だけでなく、メモリーカードでも持っておく。

・投影が出来なくなった場合、紙の資料で乗り切れるようにしておく。

・マイクが使えなくなった場合に備えて、生声で通るか確認しておく。・・・等

③ ネガティブ前説は不要。(プレゼン時の心構え)

冒頭に「僭越ではございますが・・・」とかネガティブな前置きは必要無し。さらっと本題に入るべき。

【所感】

今回の講演はとても実践的な内容だった。基本編では、普段使っているもの、なかなか目にする機会の少ないものを含めて、世の中の「端子」について網羅的に知ることが出来たので、今後は機器の取扱い時には、まずどの端子を使用するのかを把握しようと思った。また、マイク、プロジェクターの実践編では、実際に起こり得るケースを挙げて説明いただいたので、万が一トラブルに遭遇しても、今回の内容を思い出し、慌てずに対処できるのではないかと感じた。

そして、重要なのは「事前に試すこと」「バックアップ策を用意しておくこと」とのお話を伺い、改めて「何事においても事前の準備は大切である」ということを再認識した。

以上

報告者：第37期 田島 孝信